地域づくり表彰

まっかり温泉スリッパ卓球大会実行委員会(北海道真狩村)

スリッパ卓球でつながる、ひろがる

まっかり温泉 スリッパ卓球大会実行委員会

実行委員長

田村 豊和



1. 真狩村の概要

真狩村は、日本百名山にも選ばれ ている羊蹄山の南に位置しています。 札幌まで車で約1時間30分、新千歳 空港へも2時間弱で行くことができ る人口 2,000 人の小さな村です。農 業を基幹産業とした純農村で、特に 食用ゆり根は日本一の品質と生産量 を誇っています。2008年のG8北海 道洞爺湖サミットにおいて、世界各 国のファーストレディがランチ会場 として利用されたオーベルジュ「レ ストラン・マッカリーナ」や、羊蹄 山から湧き出る豊かな水、甘みのあ る脂が美味しいハーブ豚など、豊か な食が魅力です。世界的にも有名な ウィンターリゾート地であるニセコ やルスツと隣接しているため、車で すぐ足を運ぶこともできます。また、 演歌歌手の細川たかしさんの出身地 で、手をかざすと歌う銅像が有名で す。



日本百名山「羊蹄山」と「細川たかし像」

2. 活動開始の背景・経緯

まっかり温泉は、平成5年に営業 を開始し、村で管理・運営を行って いましたが、平成18年から商工会が 指定管理することとなりました。当 時から、年々温泉の利用者が減少傾 向にあり、また真狩村への観光客が 夏に比べ冬は半減している現状を見 て、なんとか冬の真狩村を盛り上げ られないかと、商工会青年部で検討 を始めたことがきっかけでした。



冬季の観光客が半減

検討の末、「温泉でスリッパを使っ た卓球大会をしたら面白いのではな いか」という斬新なアイディアを採 用し、平成19年2月に第1回大会を 開催しました。当初は5名で運営し ていましたが、第2回大会以降は、 商業者、農業者、役場職員などを集 め実行委員会を組織しました。現在 は約20名の実行委員で運営し、今年 1月に第12回大会を開催しました。

3. 大会の内容

スリッパ卓球大会は、その名のと おり卓球ラケットの代わりにスリッ パを使用して競技します。普通の卓 球は経験者相手となると勝つことが 難しいですが、スリッパを使うこと によって打球のスピードが遅くなり、 回転もかかりにくくなります。その ため、ラリーが続きやすく、卓球未 経験者でも上位を狙うことができま す。また、スリッパは各自持参とな るので、持ちやすさやボールの反発 など、自分に合ったものを持ってく るのがスリッパ卓球の上級者です。

大会の会場はもちろん、まっかり 温泉です。普段は休憩所として使っ ている大広間に卓球台を設置し、選 手も加わると会場内はぎゅうぎゅう になります。この会場の狭さがスリ ッパ卓球大会の魅力の一つです。運 営者や参加者同士の距離が近く、多 くの交流が生まれています。毎年参 加してくれている方は、同窓会のよ うな気持ちで、選手や実行委員たち との再会を喜んでくれています。



狭い会場内で生まれる交流と一体感

大会賞品には、真狩村の特産物な どをたくさん用意しています。その ほとんどは、村内外合わせて70社近 くの事業者からいただいた協賛品で す。上位には真狩産のハーブ豚のブ ロック肉などがもらえますが、抽選 会や特別賞でも村の自慢の特産品が 当たるチャンスがあります。特別賞 は、スリッパ卓球の実力ではなく、 スリッパのデコレーションや、コス チュームで大会を盛り上げた人に与 えられ、毎年工夫を凝らしたデザイ ンのものが登場することも、大会の 楽しみの一つです。

大会終了後は、温泉で試合の疲れ をゆったりと癒すことができます。 露天風呂から眺める羊蹄山は絶景で、 源泉 100%かけ流しなので真冬でも ポカポカと温まります。



露天風呂から眺める美しい羊蹄山

4. 活動の広がり

温泉卓球の大会は真狩村だけでは なく、全国各地で開催されています。 平成 24 年にインターネットで偶然 見つけた山口県湯田温泉のスリッパ 卓球大会のポスターを見て、実行委 員は大会参加を即決し、規模も大き

い大会にも関わらず男子の部で優勝、 女子の部で準優勝を成し遂げました。 そして、大会終了後の懇親会で実行 委員の方々と多くの交流ができたこ とが大きな契機となりました。

翌25年1月に山口・九州地区で「ご当地温泉卓球振興協議会」が設立され、ご当地温泉卓球に取り組んでいる温泉地が連携と振興の強化を図っている中、まっかり温泉も平成26年7月に協議会へ加盟し、現在では全国9温泉地がご当地温泉卓球を盛り上げようと活動を展開しています。

平成30年7月には、加盟地が持ち回りで開催している「ご当地温泉卓球全国大会」の第6回大会を真狩村で開催しました。加盟している温泉地で使用している風呂桶やかまぼこ板など、ユニークなラケット7種類全てを使いこなすという大会で、全国各地の仲間が集結しました。各地で行われる大会やご当地温泉卓球大会を通じて全国各地との仲間と交流を図ることができ、大会運営や地域づくりについてお互いが切磋琢磨できるような関係を作ることができています。



各地の温泉卓球で使われるラケット

また、スリッパ卓球の参加を通じ 交流が始まった「神恵内村魅力創造 研究会」とは任意団体同士で連携協 定を結び、お互いの村の魅力を発信 し、地域づくりに協力し合っていく ことを約束しています。

5. 活動の継続性

第1回大会の参加者は48名でしたが、徐々に増え、現在は申込開始から数日で定員の100名に達しており、冬の真狩村の一大イベントとして定着するようになりました。大会規模を大きくすることも検討しましたが、狭いまっかり温泉を会場にすることで生まれる一体感がスリッパ卓球大会の良さなので、温泉内での開催を続けています。

大会は全て自主財源で運営しており、収入源のほとんどは大会の参加料で、ひとり1,500円です。そのほ

かの収入源として、スリッパ卓球Tシャツなどのオリジナルグッズを製作して販売、他にはまっかり温泉の効能を参考にして作った入浴剤を販売し、売上の一部を財源にしています。入浴剤のパッケージには、スリッパ卓球の過去の優勝者の写真を載せるなど、PR活動も兼ねて温泉内で販売しています。補助金などを使わないことで、スピード感を持って活動に取り組むことができています。



入浴剤の売上げも活動財源に

6. 地域資源の活用

大会に参加し、スリッパ卓球の楽しさを感じてもらうことはもちろんですが、真狩産の野菜やハーブ豚などの特産品、地元有名店のパンやジャム、レストランの食事券など、様々な賞品を参加者のみなさんに提供し、村外の方に真狩村のことを少しでも多く知ってもらうことも大会の趣旨の一つです。

真狩で開催したご当地温泉卓球大会の際には、長崎県の加盟地にある 老舗菓子店や真狩の有名豆腐店とコラボレーションしたスリッパ卓球の 特産品を開発するなど、新たな商品 づくりにも挑戦しました。





コラボして生まれた新たな特産品

7. 創意工夫

情報発信では、Facebook等のSNSを積極的に活用し、常に自分たちや仲間の活動に関する情報を発信・共有しています。「スリッパ卓球」のいいね数は、「まっかり温泉」の500を凌ぐ700に達します。また、参加者をモデルとした大会の案内ポスターを自分たちで作り、ユニークなデザインが一部で話題になっています。大会で優秀な成績を収めた選手には、大会PR大使として名刺を贈呈する

など、様々な方向から PR につなげて います。

8. 成果

スリッパ卓球の活動開始以降、真 狩から歌手を出したいと「歌うまい 王決定戦」を企画開催している団体 や、スポーツを通じて地域のコミュ ニティを深めたいと活動している団 体など、自主的・主体的に活動して いる地域団体が誕生し、住民みんな が協力して地域について考える人が 増えたと実感しています。

メディア関係では、過去3年間で テレビ9回、新聞14回、雑誌7回に 取り上げられています。北海道内で 5万部の発行部数がある雑誌では、 特集含め計10ページの掲載をして いただきました。大会来場者は累計 1,500名以上、村内消費額は500万 円以上あると見込まれます。また、 大会参加を機に真狩へふるさと納税 をしてくれた方がいるなど、スリッパ卓球を通して真狩村のファンになってくれた方が増えていると感じています。

9. 課題と展望

スリッパ卓球大会実行委員会は、できることは自分たちで行うことを モットーとしていますが、活動を継 続していく上では、組織の地盤をし っかり作っていくことが必要となり ます。その課題として

- ・地域づくりを担う人材の育成
- 活動財源の確保
- ・活動による成果の明確化
- ・各任意団体との連携強化

などがあります。今後も活発な活動をしていくためにも、地域づくりを行う団体のモチベーションを高められる体制を作っていかなければなりません。そしてさらに、村全体で地域づくりについて考え、進めることができればと考えています。これからもスリッパ卓球を通して皆が楽しく、笑顔になれる大会づくりを目指していきます。



全国各地のご当地温泉卓球の仲間たち